

同窓会報



鳥羽商船同窓会

三重県鳥羽市池上町1番1号

郵便番号 517

電話 代表 鳥羽 (0599) 25-3137

振替口座番号 名古屋 5-846



ごあいさつ

会長 西島好夫

陽春の候 会員の皆様には益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

昭和五十二年度以来、鳥羽商船同窓会がその威信にかけて推進し、よくその成果をあげることが出来ました母校の創基百周年記念事業は、去る二月二〇日の最終報告を以てその幕を閉じることになりました。ここに会員皆様の御協力に対しまして厚く御礼申し上げますと共に、今後の一層の御活躍をお祈り申上げます。環境整備も終り、百周年記念館の表札も設置されました写真を御覧頂きまして母校の今後のあり方につきまして心を新たにお見つめ下さいますよう、お願い申し上げます。



本部報告

母校鳥羽商船高等専門学校は、商船大学や他の商船高等専門学校と違つて、校祖「近藤先生」による攻玉舎分校としていわゆる私塾として発足したところに大きな特徴があります。現在に至るまでの百余年の歴史は、その大半が苦難の連続であり、幾度かの廃校問題が起つたことは、母校百周年記念誌にも詳細に記載されています。

船協)を中心として活発な昇格運動を展開した母校の前途が、昨年始め頃から俄に雲り始めかけたことは、全船協の会報等により気付かれていることと思われます。すなわち、長引く海運界の不況を反映して、母校においては、関学科の一クラスを陸上を対象とした学科つまり海運とは全く無関係な就職先を考慮した転換作業が

の免状を持って堂々と海上に就職しにくいという事実はあっても、不可能ということはないわけです。二級以上の免状を持たない者は船会社に推薦しかねるという考えがもしあるとすれば（そういう不満が各支部で若い同窓生を中心起つて）その結果が、海上就職率の低下となつて、学科の転換へと短絡視されている点も考慮する必要があります。

前報でもお知らせいたしました
ように、明年は同窓会創立六十周年
年に当りますので、ゆかりの地神戸
戸において盛大な記念総会を開催
すべく目下準備中であります。
去る十二月末に神戸支部・大阪支
部と本部事務局とほ間でその実
施について検討会を持ちました。
その結果

祝賀会 会費制の立食パーティを予定し、予算の一部を本部会計及び地元有志による寄与に仰ぐ
すでに一部の方からは原稿を頂いておりますが、絶体数が不足しています。従つて我と思われる方はござつてお送り下さい。
内容は、在学中の思い出、就職後の体験等なんでも

は一丸となって事の解決に対処し
去る昭和五十七年十一月には盛大
百周年記念業事が展開されたのは
周知のとおりであります。

しつつあります。

確かに海運は発展途上国^の産業という概念は強まる一方です。一部の先端技術を除いて、これはどの産業にも当てはまる現象であり結局は生活レベルの低いところが

場所　神戸市内（一案としてテルのホール）
総会　通常総会にない盛り上がりにつとめる

就職後の体験等なんでも結構です。四〇〇字詰原稿用紙三、四枚でまとめて本部宛送つて下さい。

「議員立法」によつて設置された
という事實について、新めて認識
して頂きたいと思います。すなわ
ち、我が母校は、我々同窓生の積
年の願いを込めて、自分達の手で
発展させたことを大いに誇つて然
るべきだと存じます。

母校創立百周年記念式での式辞と
はまさに裏腹の関係にあることについ
ての学校側からの公式的な説明を受けて
いない同窓会ではとまどいを感じて
いる次第です。極く近い将来、「鳥羽商船工業高等専
門学校」に名称が変更されるのは

空がサービスの面で世界一といわれるのも人件費の関係で運賃、スチュワーデスの数等で他を引き離すことが可能であるところに他なりません。

創基百周年 記念事業の 拝啓

創基百周年 記念事業

記念事業の決算について

拝啓 早春の候 益々御健勝のことを

二〇日に最終決算を行い監査を受

せん。母校の場合航海学科が一機関学科が二クラスの編成となつております。現在の就職についていは航海学科の場合は殆んどが海上に就職しております。しかし機関

スの分野でも同じような成り行きになることは目に見えております。このような事実をふまえて、あえて母校の工業高専化の推進について、同窓生の皆様の御意見を大いに

昭和五十九年度本部総会の議題
の一つとして活発な論議の場を持
ちたいと思います。

東

鳥羽商船高等専門学校

京

創基百周年記念事業後援会収支総計算書

支

(自昭和55年4月1日 至昭和59年2月20日)

陪

◎ 決 算	總 額
○ 収 入 の 部	
○ 支 出 の 部	
1. 寄 付 金	2 0 6 , 1 8 4 , 2 3 1 円
2. 預 貯 金 利 息	2 0 6 , 1 8 4 , 2 3 1 円
3. ご祝儀・その他	0
1. 創基百周年記念事業関係	
(1) 資 料 館 建 設 費	1 6 6 , 9 6 1 , 8 2 7
工 事 費	1 3 7 , 6 7 5 , 0 0 0
調 度 品 購 入 費	1 2 0 , 4 1 5 , 0 0 0
展示品収納ケース代	7 , 8 1 0 , 7 1 3
環 境 整 備	6 , 5 6 7 , 0 0 0
竣 工 式 経 費	1 , 4 6 0 , 0 0 0
(2) 記 念 碑 建 立 費	1 , 4 2 2 , 2 8 7
(3) 出 版 物 経 費	3 , 5 1 6 , 8 0 0
百 年 史	1 4 , 2 2 7 , 7 7 7
百年記念小誌	9 , 3 1 5 , 4 8 7
(4) 記 念 品 経 費	4 , 9 1 2 , 2 9 0
(5) P R 経 費	9 , 2 4 2 , 2 1 0
2. 創基百周年記念行事関係	2 , 3 0 0 , 0 4 0
(1) 記 念 式 典 経 費	1 9 , 0 0 1 , 9 0 8
式 典 費	9 , 8 9 7 , 8 0 7
祝 賀 会 費	6 , 3 8 9 , 7 1 7
(2) 学校公開・催物経費	3 , 5 0 8 , 0 9 0
講 演 会 ・ 映 画 会	9 , 1 0 4 , 1 0 1
コ ン サ ー ト	2 5 6 , 5 6 0
日 本 丸 見 学	5 , 4 1 6 , 1 2 0
学 校 公 開 ・ 学 生 催 物	2 , 0 9 5 , 3 0 7
3. 事 務 費	1 , 3 3 6 , 1 1 4
委 員 会, 連絡会, 募 金 旅 費	1 8 , 7 3 2 , 1 2 9
印 刷 費	3 , 8 0 7 , 8 6 1
通 信 費	1 , 7 3 8 , 0 0 0
事 務 員 給 費	2 , 3 5 8 , 2 9 5
同 窓 会 議 費	3 , 0 6 3 , 4 3 3
同 窓 会 活 動 費	1 , 1 7 7 , 8 3 3
諸 雜 費	4 , 1 9 9 , 8 0 0
4. 引渡金(同窓会へ引継)	2 , 3 8 6 , 9 0 7
	1 , 4 8 8 , 3 6 7

さい。
なお、添付書のうち収支総計算書の支出の項目及び金額の一部が決算書と相違するところがありま
すが、決算書は帳簿の分類によつ

て計上したものであり、収支総計算書は計算上の分類によって計上したもので、支出そのものには変りはありません。
収支総計算書は、参考資料とし

て添付したものです。この点、御了承くださいますようお願いします。
今後共よろしく御協力の程
願い申し上げます。

昭和五十九年三月二日

敬具

西山島好文

支部報告

東京支部

理事 浅野 利昭

出席希望者は岡田商船の野田理事
(03-258-1471) にご連絡されたい。

(出席者)

昭和五十八年十一月十七日(木)夜、東京ステーションホテルにおいて恒例の支部総会が開催された。出席者は五十四人で和気あいあいの楽しい一夜を過した。

当日は、あいにく西島同窓会々長、山門校長、和田全般協会長は所用のため欠席されたが、西全船協会副会長、越智次席海技試験官(元教官)が来賓として出席された。

江崎広治、中川良夫、坂口才五郎、佐野房雄、神田邦郎、小島明正、倉橋善正、浦田楠雄、近藤辰郎、松岡秀次、押尾定夫、加藤徳助、佐藤静雄、浅野和昭、金子昭、鹿島博、林幹夫、季家正晃、片岡久雄、小山逸男、中島史陵、永田尚司、千々波天信、岩田和雄、林郁樹、青木金次郎、辻裕、小出政夫、近藤明、田中誠、谷川雅俊、稻葉靖夫、菱田司、尾鷲綱三、野村義男、小川年章、田中徹生、飯島寿、結城勇、上総正博、横山良一、友田勉、加藤一臣、尾形忠比古、新谷敏幸、大坪裕一、阿部雅己、岡田和泰、吉原保行、原功一、丸山浩、

木君が珍らしく出席され、隣り合せの席でした。会議後の話は先に知られていましたが、新潮社から「夜NHK-TVで放映の出かせぎ外國船員のことから発展して日本の船員、海運界のことまで」

国会での中曾根×石橋の如く、予ねてから立場、持論の違うことで有名な二人のこと、益を交わし乍らも話の内容は、仲々きびしいものでした。

※然し、解散後の二人は『最近、家では禁酒させられているの

でこういう機会に飲むのだと

言う西川君』仲よく肩を並べて二次会へゆくのでした。

この役員会での私の提案は次のとおりでいずれもO・Kとなりました。

◎同窓会に魅力がないのは年寄りが多く、又運営しているせいだから、学校本部との折衝以外は二十代~四十年代の人たちに運営を任せてしまえ!

◎奇数月の第三土曜日を名鳥会の日と定め、場所を指定しておいて、同じ飲むなら二月に一回は

この日にその場所で難かしい話なしに親睦、交流を深めるようによ。

の作家豊田穰氏が校祖近愛先生の伝記を書かれることは先に知られました。明けの潮という題名で刊行されています。一、二〇〇円、およみ下さい。

関門支部

支部長 和田道夫

拝啓 野に山に秋色深まり快適な季節を迎へました。事務局皆さんにはご健勝にてご活躍のこと、

お慶び申し上げます。さて当関門支部では五十八年度九鳥会を左記により開催致しました。

日時 十月八日

会場 北九州市門司区 貿易会館内

出席者 十一名

福永芳雄(T4N)、南 兵二(S4E)、田畠秋一(S6N)、大石

信(S9E)、和田道夫(S10N)、早津辰海(S11E)、吉丸 登(S11E)、田村成治(S24N)、土井雅



福永前支部長へ記念品贈呈

福永芳雄(S28E)、安藤 正(S32N)、山田昭博(S44E)

夫(S28E)、安藤 正(S32N)、山田昭博(S44E)

当日は、昨年度まで長年に渡つて関門支部長として同窓会のため尽力された福永先輩のその苦労に感謝する意味で開催されました。又同先輩は今年八十八才の高齢になられます。この大変お目出度い米寿をお祝いして九鳥会より花束及び記念品を贈呈しました。

会は昼食をはさんで、会員の自己紹介や母校での想い出話など話し合はざみました。又福永先輩より船長時代のまことに興味深い想出話など伺つて大へん有益でした。

君はこの日、前役員落合好明さんから引き継ぎのため、やむなく出席していた処な

で、大賛成、早速、若いパイロットさんに役を押し付けて

君はこの日、前役員落合好明さんから引き継ぎのため、や

むなく出席していた処な

で、大賛成、早速、若いパイ

ロットさんに役を押し付けて

君はこの日、前役員落合好明さんから引き継ぎのため、や

むなく出席していた処な

で、大賛成、早速、若いパイ

(海事センタービル) (社)全日本船舶職員協会
電話 03(230) 2651代

ご苦労さん

日本丸

浅野 和昭

春生
〒102 東京都千代田区麹町四一五
海事センタービル内

電話 03(230) 2651

同窓生・職員の叙勲

昭和五年以来五十四年の長きにわたり、優秀な日本人船員を送り出してきた練習船「日本丸」は本年九月には引退し、横浜港に保存され第二の人生を送ることになった。

さて、「日本丸」の一生を振り返つてみると、戦前のんびり遠洋航海ができた時代に始まり、戦時中帆を下ろし瀬戸内海で石炭輸送しかできなかつたころ、昭和二十年機雷投下と燃料不足による航海能の最悪の事態、戦後の外地から引き上げ輸送、朝鮮動乱とともに特殊輸送の変則時代を経て同二十七年六月帆装復帰工事を完了し、練習船「日本丸」の一生は人間にたとえるならば百歳以上生きたことになる。また、海・船の昭和史そのものもある。

今まで「日本丸」に乗船した乗組員・実習生の数は数千人に達しているという。

今秋の引退を機会に、関係者会いついで、京浜地区で「さよなら日本丸の夕べ」を開催したらどうだらうか。

神戸等各地で、関係団体共催の形で実現しそうです。決定すれば海事関係の新聞や雑誌で報道されます。関心をお持ちの方は左記にお問い合わせ下さい。

全日本船舶職員協会 (会長和田

学校便り

昭和五十八年七月～五十九年一月

◎体育大会

● 第二十一回東海地区国立高専体育大会は、七月十六日(土)～七月十七日(日)の二日間、競技種目別に沼津・豊田・岐阜・本校の四ヶ所で開催されました。選手諸君の日頃のたゆまぬ練習にも拘らず、本年の成績もあまり振わず、

● 東海地区高専体育大会秋季大会と二十一日(月)の両日、岐阜専で開催されました。本校は、優勝で岐阜高専と対戦、惜しくも敗れ昨年に続く連続優勝は成りませんでした。

● 電算機初級講座が、八月二十三日(火)～二十六日(金)に

○講演

昭和五十八年七月七日(木)と八日(金)の二日間にわたり、日本バイロット協会の海務課長・中村祐三氏に「救命講習」をしていただきました。

この講座は、本年で二回目ですが、昨年を上回る参加者となり、

鳥羽市内から中学生二十六名(昨年十九名)が受講しました。ベー

シックプログラミングを中心とした講義に加え、特に今回は最近普及が著しいマイコンについての講義を組んだこともあって、受講生に大好評の講座となりました。

● 第十八回全国商船高専漕艇大会は、七月二十八日(木)と二十九日(金)の両日、弓削商船高専で開催されました。カッター部は残念ながら三位に終りましたが、ヨット部は二位以下に格段の点差をつけ昨年に続き優勝しました。

● 第十八回全国高専体育大会は、先の東海地区大会で抜群の強さを見せた優勝したハンドボール部が、七月下旬、中国代表の強豪徳山高等学校と対戦、延長戦の末、惜しくも敗れました。その他の東海地区大会選抜者は、八月十九日(金)～八月二十一日(日)にかけ富山工業高等専門学校で開催された全国大会に出

場しましたが、優勝はできませんでした。

● 公開講座の開設

● 「海洋教室」が、八月一日(月)はブールと「鳥羽丸」で海上飛込み法等の実習を四年生・五年生に

主体に講演していただき、第二日はブールと「鳥羽丸」で海上飛込

主に講演していただき、第一回はブールと「鳥羽丸」で海上飛込

主に講演していただき、第一回はブールと「鳥羽丸」で海上飛込

主に講演していただき、第一回はブールと「鳥羽丸」で海上飛込

主に講演していただき、第一回はブールと「鳥羽丸」で海上飛込

主に講演していただき、第一回はブールと「鳥羽丸」で海上飛込

阜・三重県下の小学校五・六年生四十七名は、白菊寮に宿泊し、航海学科教官の指導で手旗信号・ロープの結び方・カッターペーリング海に関する雑誌と多種目にわたる講習内容を熱心に受講しました。

一人の落伍者もなく、無事に講習を終えましたが、海に興味を持つ少年達に海洋知識を正しく理解させ、規律ある生活で心身を鍛えるとのと思われます。

● 規律ある生活で心身を鍛える少年達に海洋知識を正しく理解させ、規律ある生活で心身を鍛える

講習内容を熱心に受講しました。

一人の落伍者もなく、無事に講習を終えましたが、海に興味を持つ少年達に海洋知識を正しく理解させ、規律ある生活で心身を鍛える

講習内容を熱心に受講しました。

● 規律ある生活で心身を鍛える少年達に海洋知識を正しく理解させ、規律ある生活で心身を鍛える

鳥羽商船窓会報

が構造不況と云われることが大きく影響しているようだ。

◎卒業式

第十二回卒業証書授与式は、九月三十日(金)に第二体育館で、来賓・父兄・教職員及び在校生等多数参列のもとに行われました。

本年度の卒業生(高専十二期生)

はN科二十四名、E科三十一名ですが、優等賞(金時計)・皆勤賞(銀時計)・精勤賞・船員奨学会賞・航海訓練所優等生賞を多数が受賞しました。

式終了後、恒例の卒業祝賀パーティが第一体育館で催されました。そこで、一段と厳しくなった就職状況を反映してか、会場の雰囲気も例年より盛り上がりが少なかつたようです。

その就職状況は、N科が七割、E科が五割の海上就職率ですが、そのほとんどが中小船会社であるのが特徴といえます。

●八月二十二日(月)、大阪市東住吉区・平野区の中学校長十八名が、生徒の進路指導の研究のため来校され、本校の施設・設備を約四十分間研修していかれました。

●十月三十一日(月)、国際協力事業団(JICA)主催・海事国際協力センター実施の第十三回船員教育行政コースを研修中の海運発展途上国の一一行が、来校されました。ブラジル・フィリピン・インドネシア・象牙海岸・パプアニューギニア・フィリピン・ソロ

モン・タンザニア・タイの研修者

○カウンセラーの実施

九名は、十月六日に来日して以来、わが国の船員行政と船員教育制度の現状を理解する目的をもつて、

十一月十八日まで各地で研修中であつたが、本校施設全般を約三時間にわたり見学していかれました。

●十一月二十日(日)、攻玉社中学校第三学年の生徒二百四名他引率教諭数名が、関西方面への修学旅行の途次来校され、近藤翁慰靈碑の参拝に引き続き校内全体を見学していました。

●十二月二十一日(日)、中村久男、小山道夫、小山逸男、裏山惣一、小又弘利、宇野憲治、森博、加藤富士雄、越賀暁、門坂昌治、谷村栄、原田博、川辺欽一、林義則、山本哲三、山本忠志、梶山数雄、安藤正、佐藤善喜、竹田性嗣、菅沼延之、八木隆太、渡辺欽一、奥義和、野田則之、高嶋英二、幸田幸佐一、森部保、青山周弥、大島秀也、野崎利夫、富岡栄一郎、木内清次、山口義治、中野正義

九名は、十月六日に来日して以来、わが国の船員行政と船員教育制度の現状を理解する目的をもつて、精神科医に来校していただき、学生を対象にしたカウンセラーを実施しています。友達・親兄弟・先生・あるいは先輩などに相談出来ない悩みを、学校外の専門医に打ちあけ相談に応じてもらうことに

より、悩み多き青春時代が少しでも明るくなればと思っています。

◎退任教官

小林豊教官が、昭和五十八年十二月三十一日付で退職されました。

小林教官は、昭和二十七年五月一日より本校に三十一年間在職され、

一貫して「航海計器」の授業を担当された他、学生主事・航海学科主任・図書主任の要職を務められ、学生教育・学校運営に多いに貢献されました。

退職後の住所は次のとおりです。

〒 四四三 蒲郡市八百富町一
五千円

一万円
笠原 醇(終身)、森岡加之助(終身)、大沢松一(終身)、吉木 昂(終身)、大平喜則

一万二千円
渡辺 清、坂本 通

一万三千五百円
山浦 孝、大西 裕、平野安太郎、丸本利造

一万五千円
山村由則、

三千円
浅井英輔、中村久男、小山道夫、井上信也、宇野憲治

二月三十一日付で退職されました。

小林教官は、昭和二十七年五月一日より本校に三十一年間在職され、

一貫して「航海計器」の授業を担当された他、学生主事・航海学科主任・図書主任の要職を務められ、学生教育・学校運営に多いに貢献されました。

退職後の住所は次のとおりです。

〒 四四三 蒲郡市八百富町一
五千円

七千五百円
鹿野秀治、竹内幾生

六千五百円
根本 明、田中忠士、横山良一、梅村伸雄、金沢寛治、宮増一郎、岩撫 勉、川辺恒一、林 郁男、小林 司、山本哲三、藤原隆久、木場弘幸、安藤 正、阿部紀夫、清水貢、佐野義治、岡本康裕、小野裕三、畠内康孝、深野 久、佐藤善喜、竹田性嗣、菅沼延之、八木隆太、渡辺欽一、奥 義和、野田則之、高嶋英二、幸田幸佐一、森部 保、青山周弥、大島秀也、野崎利夫、富岡栄一郎、木内清次、山口義治、中野正義

一千五百円
川上幹彦、長尾昭彦、橋爪政蔵、

岩崎健男、吉川敏三、平嶋洋司、佐々木 靖、志賀延彦、山田哲也、室谷迪滋、西川義徳、黒田

章三郎、大西 智、東 浩一、

芝村憲三、土屋和男、西飯高志、

村清身、川崎武夫、今井隆夫、

田中亀佐男、山口 篤、今

卒業年度	氏名	勤務先	〒	現居住所	電話番号
------	----	-----	---	------	------

昭和59年度本部総会の御案内

昭和59年度本部総会を下記の要領にて開催いたしますので、万障お繰り合わせの上御臨席賜りますようお願い申し上げます。

記

- 日時 昭和59年6月3日(日曜日)11時半
- 場所 鳥羽商船高等専門学校図書館
- 議題 (1)昭和58年度会務並びに会計報告
 (2)役員改選
 (3)昭和59年度行事予定
 (4)創基百周年記念事業最終報告

(5)その他

当日は昼食を兼ねて13時より懇親会を百周年記念会館会議室で開催いたしますのでござって参加して下さい(会費3000円)。

なお出欠については同封のハガキにて御連絡下さい。会員が乗船中あるいは外地等に出張中の場合は、お手数乍ら御家族の方でぜひ動静について御連絡下さい。本部の台帳の資料といたしますのでよろしくお願い申し上げます。

死 亡 者 名 簿

(受付順)

卒業年度

氏名

住

所

遺

姓